

繋 谷地南部っ子

令和7年度 学校便り
R7. 10. 31
NO 16
校長 秋場 一憲



経営キーワード「言葉（言葉遣い・言語力）」・自立（自ら判断実践・協働的解決・新たな課題追究）」

非日常の生活で学んだこと、身に付けたこと

10月9日（木）と10日（金）の2日間、5年生が、朝日少年自然の家を会場に宿泊体験学習を行いました。自然の冒険に始まり、野外炊飯活動やランタンファイヤー、テント泊、そしてプラネタリウムなど充実した体験を積み重ねました。熊や蜂対応策も入念に準備し、誰一人大きな事故や怪我無く過ごすことができました。2日間の非日常生活の中で、子供たちは普段ご家族に支えられて生活していること、自分で考え仲間と協力しなければ前に進まないこと、自分の命や健康を守るために気を付けなければならないことなど、多くの大切なことを学ぶことができました。



自然の冒険



テント設営



野外炊飯

実りの秋を迎えました！！ ～ 5年米作り体験：手作業の苦労も楽しさに ～

先月下旬から今月中旬にかけて、5年生が稲刈りと脱穀作業を体験しました。田植え以降、稲の生長を観察し収穫を心待ちにしてきた子供たち。地域講師の布川峯夫さんをはじめ、学校運営協議会の山田剛会長さん・青木昌治委員さん、複数名の保護者並びにご家族、地域ボランティアの皆様のお力添えをいただき、短時間で集中して作業を終了することができました。子供たちにとっては、手作業の苦労も楽しさに。とても良い汗をかいていました。まだまだ、米作りの探究学習は続きます。



刈った稲を杭掛け



機械でも脱穀

若手・新任教職員&町職員紹介シリーズ 第3弾

今回は、前号に引き続き学習生活指導補助員2名を紹介します。多くの大人の目があることで、子供たち一人一人へのきめ細やかな支援が可能となり、子供たち一人一人の持つ力を一層伸ばすことに繋がっています。

第3弾：黒坂はな・今野桃花 学習生活指導補助員

本校勤務3年目となる黒坂はな 学習生活指導補助員。今年度は、1年間を通して1年生への支援を担っていただいています。子供たちを丸ごと包み込むような温かさ与时折見せる厳しきで、1年生からの信頼も厚く任せて安心です。

特に、ほぼ毎日、1年生が帰った後に1年担任と子供たちの様子や指導・支援の効果を振り返り、翌日の指導・支援の改善に努めています。正に1年担任とワンチームとして教育を提供することができており、日々支えていただいていることに感謝しています。



温かく見守る

元気いっぱいの子供たちと毎日たくさんの発見をしています。楽しく学習に取り組めるように、後方支援をがんばっていきます。(黒坂 学習生活指導補助員)



丁寧な支援

本校勤務3年目を迎える今野桃花 学習生活指導補助員は、今年度、多くの学年・学級の子供たちの指導・支援を担っていただいています。いつも柔らかな物腰と眼差しで、子供たちとのコミュニケーションを大切にしながら丁寧に支援を行っていただいています。

今野 学習生活指導補助員は、予め配置された学年・学級の支援のみならず、担任の予定や希望等を積極的に聞き取った上で、隙間なく支援に入っていただいています。正にのりしろを埋める働きぶりに感謝の気持ちしかありません。

素直で優しい子供たちが多く、のびのびと育てて欲しいと思っています。子供たち一人一人に目を向けて細かな支援をしていきたいと思ひます。(今野 学習生活指導補助員)

第4回校内授業研究会で学んだこと・確認したこと

10月20日(月)、第4回校内授業研究会で6年担任の松田和輝教諭が、国語「やまなし」の授業を提案しました。「やまなし」の学習と並行して宮沢賢治の図書を読み進め、その中で最も気に入った図書を紹介しようという内容です。グループ内で、子供たちは物語の粗筋のほか気になった言葉や表現、他の作品と比較して気づいたことなどを整理して伝え合いました。子供たちの中からは、「宮沢賢治の物語には『死』が共通したテーマになっている図書が複数ある。」などの発言があり、並行読書の効果が表れていると思ひました。今後も読書に親しむ機会を多く設定し、子供たちの言語力や想像力等を伸ばしていきたいと思ひます。



熱心に伝え、寄り添って聴く

【村山教育事務所指導主事からのご指導(骨子)】

◎6年生のもつ強み

- ①学ぼうとする姿勢 ②伝える意欲

◇今後の授業改善で意識して欲しいこと

- 深い学びになっていたかを検証すること
夢中になること、言葉に着目し想像すること等
- 何がわかるかというのを明確にすること
読む力、話す力、聞く力
- 並行読書の良さやデメリットを押さえたい。
「やまなし」の読みに戻る、新たな気づき(良さ)
読書が苦手な子どもの抵抗感(デメリット)